

# 子どもの貧困率

## ひとり親世帯44・5% 21年

厚生労働省は4日、2022年の国民生活基礎調査の結果を発表しました。21年の子どもの貧困率（18歳未満の相対的貧困率）は11・5%で3年前と比べ2・5%改善しました。ただ、ひとり親世帯では44・5%と依然として際だって高くなっています。

18歳未満の子もがいた世帯は991万7000世帯で、統計を開始した1986年以降初めて1000万世帯を割り込みました。一方、一人暮らしの

## 老老介護は6割上回る

「単独世帯」は全体の32・9%で最多を更新しました。最も多いのは「1人」で、49・3%と全体の半数近くを占めました。「2人」は38・0%、「3人以上」は12・7%でそれぞれ前回より減少しました。

要介護者が65歳以上で、同居して介護する家族や親戚も65歳以上の「老老介護」の割合は、6割を上回りました。

調査は毎年行われ、今回はサンプル数や調査項目を増やした3年に1度の大規模調査。22年6〜7月に実施し、世帯構成については20万3819世帯、介護については5499人から回答を得て取りまとめました。